

事業名：令和8年度地域教育実践交流集会

テーマ：「かかわりをチカラに つながりをつかち」

課題

- 「VUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）」の時代
- 地域教育力低下、地域コミュニティ機能衰退の危機
- 地域で実施されている教育は、縦割りで相互交流がない

解決

- 地域に学ぶ教育、地域で育む教育、地域を創る教育の実現
- 全国の地域教育実践者が、年齢・地域・ジャンルを超えて集まり、互いの実践を本音で語り合い、相互理解を図る手弁当・手作り集会の開催

県内外の実践者が共に学び合い、つながり合った第18回集会



【実行委員会の体制】

- 社会教育士・社会教育主事有資格者の活躍
- 高校生・大学生の社会参画をバックアップ
- 多様なジャンルの実践者65名の参画
- 若者の企画・運営への参加促進と役割分担
- 年間5回のハイブリッド実行委員会
- 東・中・南予ブロック実行委員会の自走

【社会教育活動の振興に資する事業】

第19回地域教育実践交流集会

令和8年12月5日～6日 国立大洲青少年交流の家

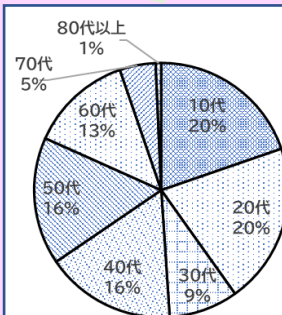
県内外から300名以上が参加

7日

- 歓迎アトラクション
(県内地域の伝統文化継承活動の紹介)
- 歓迎ワークショップ
(体と気持ちほぐし・アイスブレイク)
- 17分散会
(県外15事例・県内30事例の実践をもとに、少人数で3時間語り合う場)
- 出会いの広場
(初めての出会いの場・懐かしい再会の場)
- 交流会
(年齢・地域・ジャンルを超えたコミュニケーション)

8日

- インタビューダイアログ
(代表実践事例の交流によるテーマの深掘り)
- おでん∞Café
(ワールドカフェ方式で相互交流・まとめ)



第18回集会では、参加者の約50%が、10代から30代の若者だった。高校生や大学生による社会教育や地域づくり活動の実践発表が充実することで、対話が活性化し、相互理解が深まった。

相互支援・連携・協働による相乗効果

地域教育実践東予ブロック集会

(高校生の地域貢献活動報告をテーマに大人と高校生が語り合うシンポジウムとワークショップ)

地域教育実践中予ブロック集会

(高校生・大学生の地域貢献活動発表とカタリバワークショップ)

地域教育実践東予ブロック集会

(高校生・青年の地域貢献活動発表とグループディスカッション)

各ブロック 50名 目標



新・旧若者のチャレンジから、未来の地域教育について胸襟を開いて対話し、活動の活性化につなげる。

